

学生支援に関する学長等の認識

九州大学基幹教育院 教授・次世代型大学教育開発センター長 川島 啓二

はじめに

学生支援が、かつての厚生補導の概念によって概ねは理解されていた時代、即ち、学生が大学生活を送るにあたっての諸問題について指導・助言・援助し、困難を除去するための取組や活動であった時代とは異なり、大学生活への不適応や人間関係についての悩みなど多様かつ広範囲に跨るようになったことにより、中途退学者の増加など、大学経営上の問題として認識され、学生支援は（学長等の意識レベルにおいては）大学教育の経営・マネジメントそのものになってきていると言えるかもしれない。以下、紙幅の関係から、調査結果の特徴的な項目を抜粋して紹介する。

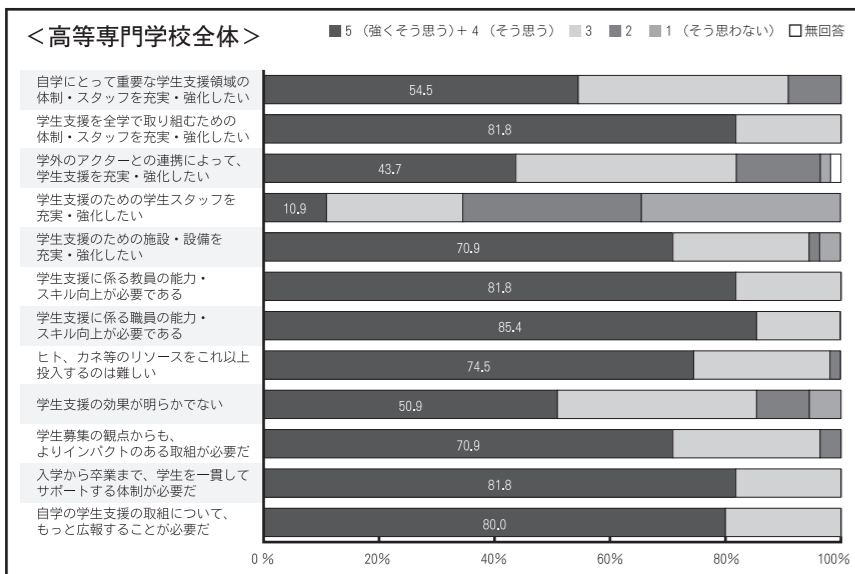
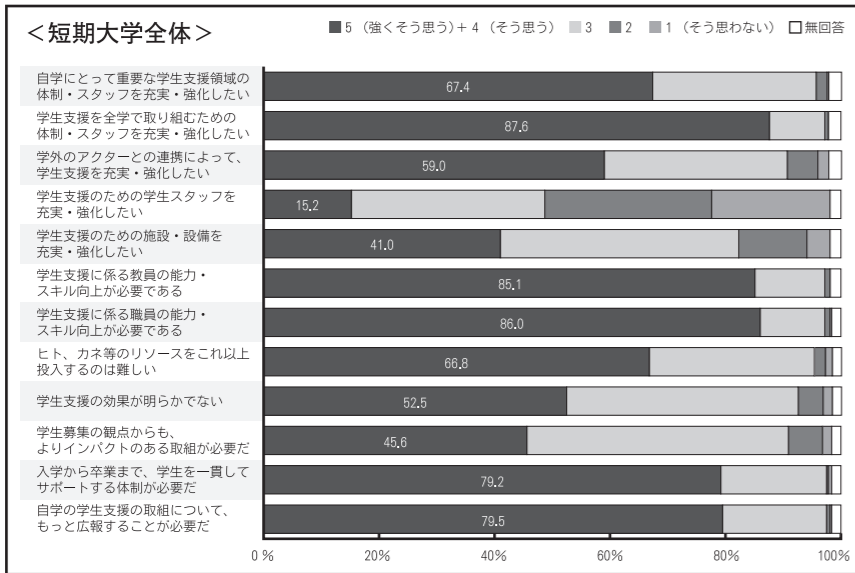
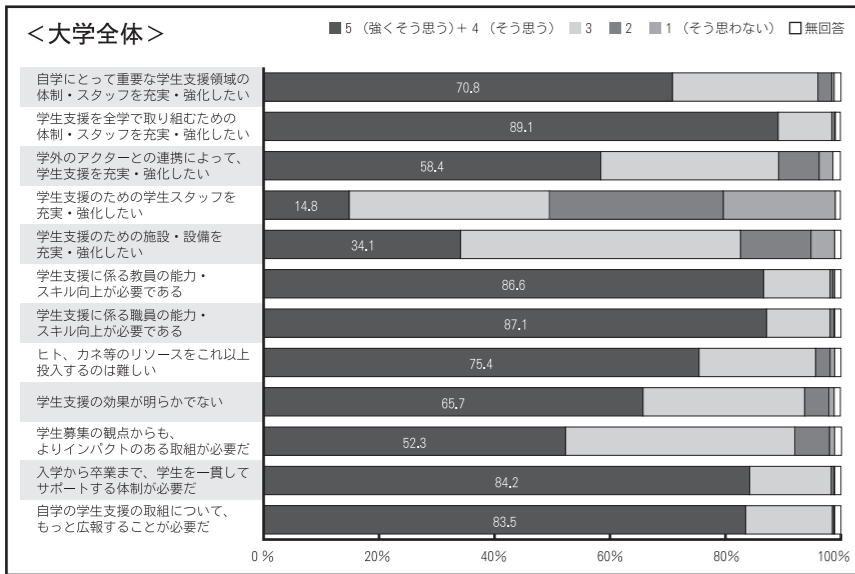
学生支援の成果として期待する項目

学生支援の成果として期待することとして、「学生生活における困難の除去」「正課における学修成果への好影響」「学生の人間力の向上」「就職率の向上」「入学志願者数への好

影響」という項目を設けた。それぞれ、伝統的な厚生補導との関係、近年のアウトカム重視の学士課程教育改革との関係、また、汎用的技能や態度・志向性の獲得との関係、キャリア教育との関係、大学経営との関係について、学長等の認識を探ろうとした設問である。学生支援の成果として期待することについて、5（強く期待している）と4（期待している）を合わせた回答率（以下、肯定回答率）の合計が最も多かったのは、大学全体では、「学生生活における困難の除去」九三・四％、

短期大学（以下本文中において「短大」という）全体では、「正課における学修成果への好影響」九二・九％であり、その他のいずれの項目も約八割以上であった。高等専門学校（以下本文中において「高専」という）全体では、「学生生活における困難の除去」九二・七％であり、「就職率の向上」五六・四％を除いて、いずれも八割以上であった。わずかな数値の差異とはいえ、「学生の人間力の向上」を「強く期待している」学長が、大学・短大において最も高い値を示していることに

注目しておきたい。生活支援や健康支援といった間接的な方策ではなく、高等教育質保証の中核的な課題である、学生の汎用的能力や態度・志向性に直接関わるような内容が、学生支援の成果として期待されていることの象徴的表現ともいえよう。細かいところを言えると、私立大学が、「学生の人間力の向上」や「入学志願者数への好影響」に「強く期待する」がそれぞれ六四・二％と五七・二％と関心の高さを示すことは容易に領けるとしても、項目によっては示される公立大学の、相



		5 (強く期待している)	4	3	2	1 (殆ど期待していない)	無回答
学生生活における困難の除去	大学 全体	60.9	32.5	5.6	0.1	0.0	0.9
	国立	71.8	27.1	1.2	0.0	0.0	0.0
	公立	55.4	39.8	3.6	0.0	0.0	1.2
	私立	60.1	32.3	6.5	0.2	0.0	1.0
	短期大学 全体	55.6	33.5	8.7	0.6	0.0	1.6
	高等専門学校 全体	60.0	32.7	7.3	0.0	0.0	0.0
正課における学修成果への好影響	大学 全体	56.9	35.9	6.0	0.1	0.0	1.1
	国立	54.1	38.8	7.1	0.0	0.0	0.0
	公立	43.4	48.2	7.2	0.0	0.0	1.2
	私立	59.2	33.8	5.6	0.2	0.0	1.2
	短期大学 全体	49.7	43.2	5.6	0.0	0.0	1.6
	高等専門学校 全体	45.5	41.8	12.7	0.0	0.0	0.0
学生の人間力の向上	大学 全体	61.7	28.4	8.6	0.4	0.3	0.7
	国立	55.3	29.4	14.1	0.0	1.2	0.0
	公立	50.6	34.9	12.0	0.0	1.2	1.2
	私立	64.2	27.3	7.3	0.5	0.0	0.7
	短期大学 全体	62.7	29.2	6.2	0.3	0.0	1.6
	高等専門学校 全体	58.2	30.9	9.1	1.8	0.0	0.0
就職率の向上	大学 全体	52.8	30.2	14.1	1.5	0.4	1.1
	国立	57.6	29.4	10.6	2.4	0.0	0.0
	公立	43.4	25.3	27.7	1.2	1.2	1.2
	私立	53.4	31.1	12.6	1.4	0.3	1.2
	短期大学 全体	57.5	30.7	8.4	1.6	0.0	1.9
	高等専門学校 全体	18.2	38.2	40.0	1.8	1.8	0.0
好影響	大学 全体	54.0	31.7	11.1	1.7	0.4	1.1
	国立	44.7	40.0	11.8	3.5	0.0	0.0
	公立	41.0	32.5	20.5	3.6	1.2	1.2
	私立	57.2	30.4	9.7	1.2	0.3	1.2
	短期大学 全体	61.5	27.6	8.7	0.6	0.3	1.2
	高等専門学校 全体	36.4	47.3	14.5	1.8	0.0	0.0

対的な「やや冷めた関心」（「学生生活における困難の除去」や「正課における学修成果への好影響」「就職率の向上」においては「強く期待」の国立大学との差が一〇ポイントにも上る。）が見て取れる。各地方に立地し、地域ニーズに沿いながら大学経営を進めている例が多い公立大学においては、競争的な環境にあることが多い国立大学、私立大学と若干の温度差があるということなのかもしれない。

学生支援を進めるための方策や課題

特筆されるべきは、「入学から卒業まで、学生を一貫してサポートする体制が必要だ」への圧倒的な支持率である。大学全体では「強く思う」五五・〇%と過半数が「強く」支持し、「そう思う」と合わせた肯定回答率はほぼ九割である。短大全体でもほぼ事情は同様である。いわば学生へのトータルサポート体制を強く支持していると解されようが、そのことは、授業料納付者としての学生数を（中退者を減らして）何とか確保しようとする現実的な観点はもとより、学生の成長を基本的な軸として、大学教育マネジメントを展開していくこうとする大学執行部の基本姿勢を読み取ることもできよう。その場合、生活支援から学修支援までを含む領域の広さと多様性が認められる。

打って変わって次に目につくのは、「学生支援の効果が明らかでない」に対する、極めてネガティブな反応である。大学、短大、高専を通じて、肯定回答は一割強に過ぎない。このような回答傾向が、学長等の「客観的な」

認識によるものか、はたまた願望を含んだものなのかは明らかではないが、この際立った回答傾向は特筆されるべきであろう。

次に留意すべきは、学生支援に係る教職員やスタッフへの関心である。「自学にとって重要な学生支援領域の体制・スタッフを充実・強化したい」「学生支援を全学で取り組むための体制・スタッフを充実・強化したい」「学生支援に係る教員の能力・スキル向上が必要である」「学生支援に係る職員の能力・スキル向上が必要である」の肯定回答率は、八割もしくはそれを超えている。ここにも従来型の学生支援である厚生指導との差異の特徴が表れている。生活支援、健康支援においては、施策や取組の内容が重要になる。（無論、相談業務においてはスタッフの質が重要ではある。）それに対して学修支援や卒業までの一貫支援を十全に機能化させようとするれば、学内の組織間の調整や長期にわたる企画などの計画性などが重要になってくると考えられる。この項目と対比して比べると興味深いのが、「ヒト、カネ等のリソースをこれ以上投入するのは難しい」と考えているのは、大学全体、短大全体では三〇四割程度に過ぎないことである。（高専全体では、「ヒト、カネ等のリソースをこれ以上投入するのは難しい」が約七割と他の学校種に比べて大きな割合となっている。）公財政支出の削減や十八歳人口の減少など厳しさを増す経営環境の中にあっても、なおリソースの追加投入は可能とする（あるいはその意思がある）学長等は少なくないのである。関連して、「学外のアクターとの連携によって学生支援を充実・強

化したい」への肯定回答も、大学全体・短大全体で五割程度に過ぎなかったというのも注目しておくべきであろう。

「学生募集の観点からも、インパクトのある取組が必要だ」については、もっと高い肯定回答を予想していたが結果はそうではなかった。学長等は、目先の問題ではなく、学生の成長等の大学の本来の課題を第一義的に捉えていると解釈したい。「学生募集の観点からも、インパクトのある取組が必要だ」と回答した中で、どのような取組を構想（想定）しているか、に対する自由記述の回答としては、奨学金、授業料の減免、キャリア支援・インターシップの充実、入学前教育、修学・学習支援の強化等があった。

まとめ

大学教育や学生を取り巻く状況の変化や、学生支援体制の構築や組織整備には、学長のリーダーシップが求められることから、その認識が奈辺にあるのかが注目される。全体を振り返ってみれば、学生支援の体制やスタッフ充実に強い意欲をもち、学生の成長のための一貫した支援システムを強く志向し、そのためのリソース投入にも考慮の余地を残しながらも、具体的にアドホックなプラン形成にまでは至っていないといった学長像が浮かび上がってくる。ともあれ、学生支援は「厚生補導」といった、かつてであれば大学にとってマージナルで「専門」的な領域ではなく、学長等にとっては、学生支援を大学経営にどのように位置づけるか、といった次元に至っているであろう。 ▣